

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成28年度川西市産業ビジョン推進委員会		
事務局 (担当課)	市民生活部 産業振興課 内線 ( 2541 )		
開催日時	平成29年3月27日(月) 午後3時00分～5時00分		
開催場所	川西市役所 B02会議室		
出席者	委員	佐々木保幸、川口星美、望月潔、片岡英夫、中西勝、木原恵美子 (欠席) 野平淳一郎、山本隆孝、吉永京子	
	その他		
	事務局	大屋敷 信彦(市民生活部長)、人見 巖(産業振興課長)、 四方田 政樹、出戸 春奈	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部不可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	1、産業ビジョンの進捗状況について 2、その他		
会議結果	会議録のとおり		

## 審 議 経 過

(事務局)

それでは定刻となりましたので、平成 28 年度第 1 回川西市産業ビジョン推進委員会を開催いたします。まず、本日の委員会につきましては、委員 9 名のうち 5 名の方に出席していただき、過半数を超えておりますので、規則第 7 条第 2 項により、本会が成立していることをご報告申し上げます。

それでは、まず始めに、佐々木委員長よりご挨拶をお願いいたします。

(委員長)

皆さまこんにちは。委員長の佐々木でございます。本日は、お忙しいところご参集いただきましてまことにありがとうございます。

さて、昨年一年間は、日本におれませんでしたので、川口委員には多大なご尽力をいただき、一年間委員会を運営していただきました。本年度も最後の会議ではございますけれども、戻ってまいりましたので、どうぞよろしくをお願いいたします。

さて、平成 25 年度から 5 年間を計画期間としている本産業ビジョンも 4 年が経過し、残すところ 1 年となっています。本日は、その中間報告としてどこまで事業が進捗しているか、方向性は間違っていないか、指標の達成状況はどうであるかといったことに対してご意見をいただき、今後の事業施策等の参考とさせていただきたいと思っております。

また、地方創生を推進するため、今年度から新たに実施している起業や就労を支援する事業の取り組み状況なども盛り込まれていますので、その点につきましても、ご意見等をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは簡単ですが、これで私からのあいさつとさせていただきます。本日は皆さま、どうぞよろしくをお願いいたします。

(事務局)

ありがとうございました。それでは、川西市産業ビジョン推進委員会規則第 6 条第 2 項に基づき、これより佐々木委員長に議事進行を務めていただきますので、よろしくをお願いいたします。

(議長)

本日の議事は 1 つだけでございます。「産業ビジョンにおける平成 28 年度の取組状況」につきまして、事務局より説明願います。

～「産業ビジョンにおける平成 28 年度の取組状況」について

資料①～⑩に基づき事務局より説明～

(議長)

ありがとうございました。すべての分野について進捗状況を説明していただきました。非常に中身が膨大になりましたので、なかなか整理しきれない部分もあるかとは思いますが、ご意見・ご質問をいただければと思っております。全体的なことについてでも結構ですし、それぞれの項目の具体的な部分に関

してのご質問でも結構です。

(委員)

基本方針の第3市民参画型のにぎわいのあるまちづくりによる川西の新しい魅力の創出というのとで、今まで中心市街地活性化協議会の方で、きんたくんバルとかいろいろやっておられるんですよね。

それは、すごくいいと思うんですけど。この時にアステの方で、年に1回カラオケコンクールをやっているんですが、大体300人くらいの方が見学に来られて、唄う方が150人くらい応募されるんですけど、時間的に無理なんで、大体120人くらいに絞らせていただいて開催しています。昨年の優勝歌手の方がプロデビューされたんです。何年か前にトイレの神様のあの方が出た後に、いつの間にか注目的になっています。川西からそういう歌のプロ歌手が出たらすごく川西のまちの魅力になると思うんですが、そういう形でぜひなんとかアステのカラオケコンクールの活動支援をこの中に取り入れていただけたら。もう一つございまして、大阪の天満に繁盛亭という落語の寄席があるんですよね。私が天神橋商店街の方と懇意にさせていただいたものですから、アステ川西繁盛亭という名前をいただいたんです。落語をやっていたんですが、途中で予算的な問題でできなくなりました。繁盛亭に関しては、今度、神戸繁盛亭も作る、またアメリカの方でニューヨークの繁盛亭も作るということも出ていますので、せっかくいい看板をもらっているのに、これを使わない手はないだろうと。落語は池田にもあり、三枝さんがおられるので強力なんですけど、やはり名前の看板を使うことによって、またアステのホールもありますし、賑わいとしてなんとかこの二つの事業を入れてもらえたらなという希望です。

(議長)

ありがとうございました。非常に貴重なご意見ありがとうございます。事務局で今の段階で何か。

(事務局)

ご提案ありがとうございます。確かにおっしゃるとおり、きんたくんバルやまちなか美術館などを実施しておるところですけれども、回数を経るごとにマンネリ化と申しますか、来客数も減ってきたりという状況です。内容を毎年度刷新してやっておるんですけども、ちょっとなかなか大きなブラッシュアップが図れていない現状でございます。またいろいろなイベントが必要だなと考えているところでございます。中心市街地活性化協議会の方とも協議いたしまして、今おっしゃっていただいたようなイベントなどをこういったきんたくんバルであるとかまちなか美術館といったところで、既存の事業と何かコラボできる方法はないかと思っております。どうもありがとうございます。

(委員)

はい、ぜひよろしく願いいたします。

(議長)

ありがとうございました。そのほかいかがでしょうか。

(委員)

2つありまして、基本方針2の地域貢献・社会貢献の推進による産業の振興というところで、中小企業福利厚生事業に対する支援というところですか。パセオの運用というのがここで説明をきちっとしていただいたと思いますけれども、パセオをさせていただいぶ経つと思います。当初から私どもの企業は入らせていただいておりますが、どちらかというと少しずつ、尻すぼみの状態なのに人数が多い。人数が多いけれども新たな取り組みとか地域活性になるための誘導とか誘因とかいうものが少し足りないという感じがします。ぜひとも地域産業であるとか、いろんなことにコラボしてパセオの事業が活発になっていったらいいなというのを感じます。

もう1点は、農業の方のことで、うちは作ったものを買う方の立場なんですが、その中で兵庫県の方からお願いがありまして、川西市内や兵庫県の産地でとれた農産物を売りながら、それを料理に活かして料理を食べていただくイベントをしてくれないかという話が向こうからきまして、それをさせていただいたことがあるんです。というのは、野菜ソムリエがうちにはおまして、その者が頼まれたものですから、させてほしいということでした。非常に好評で、あっという間にお野菜が店頭でどさっと売れてしまいました。お野菜が売れても全然会社としては利益をとっていないんですが、そういうニーズがあるということが、そういうことができるのではないかなと。兵庫県がなさっているので、川西市の農業の方もなさってくださいと、ひょっとすると季節ごとにずいぶんと賑わいができるのではないかな。

それからもう1つはキセラと地域の二角化の中で行ったり来たりさせたいと、コラボレーションさせたいという中で、ぜひストーリー性を持たせた何かをしっかりと構築していただきたい。ひょっとしたら、これをもらって買ったならここへ行ってみよう、ここで買ったならこれを使ってみようというストーリー性があるって、そのストーリー性のポイントポイントで御朱印をいただくような制度を作るといような制度をやってみられたらどうでしょうか。海外に行った時にそれを見てみて、「え、こんなこと、日本では御朱印みたいなもんだけど、違う形の回ったら何かをさせてもらえる」とかをなさっていました。実際、どこの店舗もやってらっしゃると思うんですけど、川西全体でそれをする、一か所だけでなくで北部の方もひっくるめてしてあげていただけたらいいのかなというご提案です。この3点で、あと少し実績を上げていただけたらと思います。

(事務局)

まず1点目はパセオのことだったと思うんですけども、経緯を申し上げますと、平成6年に創設いたしまして、もう二十数年たっているところがございます。会員数にしましても、事業所数がずっと100前後くらいで推移してきておりまして、会員の人数にしても、1,800から2,000くらいの間を動いているというような状況でございます。先ほど言われたもっと地域の経済に貢献するよな何か仕組みというところだと思っておりますけれども、福利厚生というものの自体が、小さな事業所さんはなかなかお持ちになれないというか、経費的な部分でどうしても福利厚生費というのは最初に削減されるようなところがございますので、そこをなんとか市の方で担保をいたしまして、安い金額でやらせていただいております。福利厚生も使われる方はどんどん使われるんですけども逆に使われない方はまったく使われないということで、サービスの内容も私どもも20年ほどやっていく中で、少しずつニーズに合わせていろいろなメニューを考えたりして、その都度やってきているつ

もりではおるんですけれども、なかなかそこから発展していないところを見ると、地域の経済とかそういうところまでは及んでいないのが現実かと思います。ただ、やはりこういったサービスというのは、少なくとも今加入されておられるところは、継続して加入していただいているところを見ると、必要とされているところかなと考えられますので、そこはそことして続けながら、もう少し事業の中心なんかその都度考えながらやっていきたいというように考えております。

それから、県の方からいわゆる地産地消ということになるでしょうけれども、野菜を取り入れた料理というものを提供するという仕組みについてですが、先ほどご説明いたしましたように、三角地というところで昨年12月に名称も新たに「まるまるマルシェ」ということでさせていただきました。その時には、今まででしたら本当に野菜を売るだけだったんですけれども、そこに商業者の方も入っていただいて、例えばいちじくの加工品やスイーツというようなものもその場で売っていただいて、非常に盛況でございました。そこに実は野菜ソムリエさんみたいな方も入ってもらおうかなという話もあり、野菜でも、こういうレシピで作られたらいいですよ、というようなことを提供出来たらなと考えていて、次の段階でその辺はやっていきたいなというようには考えております。

あと、最後キセラとの回遊性という部分ですけれども、まさに今三角地というところを起点にして、今後キセラ地区の方を整備されておりますけれども、そのところとの回遊性というのを今まさに目指していきたいと思って進めているところです。まずは三角地というもので申し上げたような「まるまるマルシェ」や地元の商業者さんがやられているイベントとか、もちろんバルとか、そういうものもやっていただいて、そこを起点にキセラの方に行っていただくという仕組みを考えたいなというように思っております。各地点で魅力的な店舗というものをできたら入っていただくような、提案公募型のような補助金を使っていただいて空き店舗にそういうところが入るようなことも考えながら、回遊性の拠点みたいなのところを作っていけたらなというようなことを今始めたところでございます。

今、3点についてのお答えということでお願いいたします。

(議長)

ありがとうございました。3点目に関しては、やはり中活協議会との連動性も非常に大事ですけれども、先ほどのご意見とも連動しますので、またよろしくをお願いいたします。

(事務局)

はい。

(議長)

そのほか何かございませんでしょうか。

(委員)

よろしいでしょうか。1点はお願いと1点は質問です。

まずお願いの方から、認定農業者ですが出ないので、青年部OBを背中押してほしいと思うのですが、いかがですか。一番近いところにおりますので。もう1点は、資料7番の目標達成のための43事業です。39番に音灯りがあるんですけど、行政としてはどのようにかかわっていかうと思っておられ

るのでしょうか。というのは、前年にややこしいことがあったので。

(事務局)

まず、1点目の認定農業者の件でございます。確かに、平成25年度くらいからはじめて、まだ1人しか認定農業者が市内におられません。今後農業委員会の組織の改正などもございまして、その中で認定農業者に委員になってもらうことで、認定農業者さんの存在というものが非常に高まってきています。とはいうものの、認定農業者に対してのメリットの部分というのが、例えば年金の部分で優遇されるとか、低利で融資がいただけるとか、そんなことがあります。私たちが質問があればお答えして県の方につなぐというようなことはしているんですけど、特に若手の方について、昨年度にご存知の通り青年営農クラブというものが解散をされました。私どもも青年営農クラブというものを介して若手農業者と接しておったんですけども、その場を失ったということで、非常に私どももその部分では痛い思いをしております。それでも、やっぱり若手農業者さんも存じ上げる方、何人かおられますので、そこには声はかけておるんですけど、なかなかそこまで踏み込んで、どういうメリットがあるのと言われたら、あまり大したことないなみたいな話になってしまっているのが現状で、なかなか増やしているところまではいっておりません。ただ、お声かけいただいたりもして、そこは何とか県の方につなげていて、必要な書類等を出していただき認定農業者に一人でも多くなっていただいたらなというように今後進めていきたいと思っております。

それと、音灯りにつきましては、立ち位置といいますか、音灯り自体は、もともとは「街はカーニバルプロジェクト」という市民の有志で始まったお祭りでございます。東日本大震災の後、鎮魂の祈りとして震災をテーマにしたような祭りとしてはじめられたように記憶しています。それがいつしか川西まつりの前夜祭ということで位置づけをされまして、自分達でやると言いながら、川西市、商工会、JAさんで出資してやっている川西まつりの会場を借りて、ステージ代とかその辺は川西まつりの方で持つ代わりにそこで前夜祭という恰好でやられたらどうですかというようなことで始まったように思います。ですから、関係というのは、あくまでも一市民の有志でやられているということで、私どもは川西まつりとして産業振興祭りを同時に開催すると、その方が相乗効果もあるだろうということでこれまで来ているかと思えます。お金の面でどうのこうのというのは、あくまでもそこは有志でやられているものですので、自分たちの自助努力でやっていただかないといけないのかなと思っております。ただ、市民の方がせっかく盛り上げてやられておりますので、そこは協働でやっていけたらと考えております。

(委員)

ありがとうございます。

(議長)

そのほかいかがでしょうか。私からもいろいろありますので。

(委員)

一つよろしいでしょうか。目的のための44事業、資料7ですけど、この中でそれぞれ事業をやって

もらっていると思うんですけど、見直す事業とか、これは必要ない事業とかそういうものはないでしょうか。

(事務局)

今回、計画の変更認定を3月に受けておりまして、先ほどあったような見直しという点ではどんどんブラッシュアップしていかないといけないと考えておりまして、たとえば33番の「かわにしまるまるマルシェ」こちらはレベルアップして実施するという事で名前も変更しています。また44番「(仮称)三角地整備運営事業」については、新たに事業を実施していくということで、中心市街地活性化基本計画の中できちっとやっていくという目標を立てて、この事業に追加をさせていただきます。そういう意味で、必要に応じて随時内容の変更でありますとか、事業の追加というものは行っております。実際、27年から始まっている事業ですので、やらなくなった事業であるとかは、適宜削除させていただきます。今、現状この44事業の中で継続してやるかどうかというのは、5年間の中でやっておりますので、この計画中に1年でもかかったものについては全部載せているという状況でございます。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

もう1つ。カラオケなんですけど、前々回から川西市の観光協会が協賛いただいております。とにかく、大きなイベントとして進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(委員)

地域資源の活用化というのは、観光農園とかそういうものだけではなくて、何年か前の産業ビジョンでも言わせていただいたと思うのですが、池田市とか西宮市とか、今、刀を題材にしたゲームが流行っていて、太秦とかそういうところでも大きなイベントとして打たれている。そして川西の満仲さんの「髭切」が結構有名になっている。他所のところは、その施設で販売されているんですけど、川西は満仲さんを推している割には、ポンと乗っかるというのがないのかなと。そして、コスプレやらなんやらというので、地域で写真を撮るといのが、結構池田市のお城でよくされているんです。ここら辺やったら、大学を借りてさせていただいたり、郷土館を借りてさせていただいたりとかいって、ちょっと水に向けてみるんですけど、トイレや着替える場所がなく、あそこいいんだけどねっという形で切り返されてしまう。そういうイベントがある時にイベントを考える人たちを引き込むんだったら、商店街のトイレを全部使ったらいいじゃない、その代わり商店街で買ってねというような形で。参加費用のうちの500円を商品券にして、その商品券をその場で使えるという形にしたら、それを使わざるを得ない形で、いろんな場所で使ってもらう。最初は池田市も70人来たらいいねって言っていたイベントで商品券を組み替えることによって、200人から300人になって、本当にトイレが困ったという苦情が出るくらいになった。そういうよその市が失敗したことをこちら側はプラスに変えていけば、いいイベントになって川西というのをPRできるのになって。源氏まつりも前に言わせてもらったと思うんですけど、同じようにサイトなんかでも有名にはなっているけど、行き方が分からない。

遠い、狭いといっばい文句が上がってきていて、そういうのもこちら側には全然伝わってないのかな、何が足りないのかな。ここへいっばい来てもらえるチャンスなのにもったいないなと部外者の状況で見えています。せっかくほかの人たちが目を向けてくれていて、近づこうとしている状況に持っていけば、川西がもっと目をつけてもらえるんじゃないかなと。それで、商品券に一部を変えただけで、結局はお商売屋さんとしたら、PR費として損をしているのかもしれないけど、絶対使わなかったらただの紙切れになってしまうと思ったら、どこかに入りはるから、キセラの地域とどこかいうような形で広い状態だったら能勢口へ来て通り道で使ってもらえるとか。今、農業と工業と商業とがかちっとした形でできているということを考えてしまうんですが、今の時代には柔らかすぎるかもしれないけど、よその市からいっばい取り込んで、いっばい成功したり失敗してはったりするのをこの川西で作り変えて、川西市でせっかく「髭切」やなんやというので、あそこへ行けばというような形になったらというのを使たらどうでしょうか。今尼崎は、お寺にそれが置かれているからというので、そのグッズを求めて若い人達がすごい集まるようになって、今まで月2、3人しかお参りがなかったのに、若い人たちがよく来すぎて苦情が上がっているという話も聞いたことがあります。来すぎるとするのはそれを利用すればいいというのが、ここの立場としてはそう思いますので、違う目線でちょっと考えてほしいなと思います。

(議長)

ありがとうございます。今の点、事務局どうでしょうか。最初おっしゃられたことというのは、新商品開発で川西の兜の時に私も述べました。やっぱり刀剣乱舞とか非常にコンテンツが盛んに行われていて、京都市なんかもその観光に露骨に刀剣乱舞の要素を取り入れて、多くの観光客、とくに刀剣乱舞やっているユーザーたち、女子が非常にたくさんくるという仕組みを作っていますから。非常にやわらかくやるということも大事だと思います。その点につきましては、中活との連動性もここでもまた重要になってくると思います。今の段階で事務局からございましたら。

(事務局)

今おっしゃられた、ある意味コスプレ的な要素、例えば兜とか歴史なんかはやっぱり興味をお持ちの方はたくさんいらっしゃいます。また違う視点で若い人はそれを面白がって刀女子ですとか、そういうところらへんに何かひっかかるような商品とか、そんなものを今申し上げたような新商品開発というようなもので事業者が考えたものを引き上げ、既存のイベントに絡めて売ってみるとか、商品ができてくればいろいろ考えようもあると思います。今のお考えというのは参考にさせていただきたいと考えております。

(議長)

ほかにありますか。

(委員)

もう1つ。今、皆さんスマホを持ってらっしゃる方が多いので、川西市として、市のアピールになっただけのものができれば、あっちに行くとかこっちに行くとかアプリの中で連動させるような仕組み作りは

そうお高くないと思うので、なさってみてはどうかと。高齢の方も、健康マイレージはそうですし、これで歩いたら何歩なのよと喜ばれたりするようなことが、そのアプリを通して川西の中でデータ化されて、これができるとかできないとか出てくると思うので、大変しょうもないことかもしれないですけど、これが大事になってくる時代で、市もそれに係わっていくというのもどうなんでしょうか。これ3事業全部そうだと思いますし、さっき申しました野菜ソムリエも健康に対して、これを召し上がっていただくとかこういう作用がありますよと。こういうこともつながってくるんですね。そういうこともその中でできたらいいなと思いますので、一度検討されてみたらいかがでしょうか。

(議長)

ありがとうございました。

(事務局)

今まさにおっしゃっていただいた市のアプリというところで、回遊性の話を先ほどさせていただいたんですけども、キセラ川西の方で、交通部会というのがございまして、低炭素を売りにして、市内を徒歩や自転車で回るといようなことを計画している部会があります。そちらの方でやはり意見が出てくるのが、単に歩くだけでは楽しくないということです。先ほどおっしゃっていただいたようにストーリー性をもって歩くような仕掛けをしないとイケないというところで、やはりそのためには情報の発信というのが非常に重要になってきます。市のアプリであるとかFacebook等で、市内の商店街さんのセール情報であるとか、そういったものを効果的に発信していくべきという意見が大変いただいており、我々も必要であるというふうに考えております。例えば、万歩計とかでありますと、市の方でも今健康政策を非常に売り出しておりますので、既にそういったところで一定の取組は進んでおります。ぜひそこと産業政策とを連携させられるような取り組みをこれから考えていきたいと思っております。ありがとうございました。

(議長)

ありがとうございました。そのほかいかがでしょうか。

今、本当にたくさんの貴重な意見をいただきまして、私自身も非常に感じ入ったんですけども、恐らく産業振興を進めていく時に、転換期に来ているのかなという認識になりました。また、恐らく総計ができてから新しい産業ビジョンに取り組みれることと思っておりますけれども、やっぱり今まで踏襲してきたような従来型の産業政策ももちろん大事だし、そこがなくなったら何の意味もなくなるのは間違いないことです。それに加えて今日たくさん出していただいたご意見、それは本当にもう現代的な産業というものが活性化していく時の一つの方向性をお出しいただいたと思っております。やっぱりコラボレーションとか文化とか若者のカルチャーとか、いろいろなものにアンテナを張り巡らして、それをキャッチしないと。それは企業の人たちももちろんですけども、行政もキャッチしていかないとこれだけ変化が激しい時代に公共政策を打ち立てていく時に、こういう時代にちょっとずれた、時代とは外れた部分が出てきます。絶えずアンテナを張り巡らしながら、そのあたりに対応し、そして川西市の産業の半分を占めていますサービス業の部分がかなりの部分を担うことになると思っておりますので、そこと連動させながら次の産業ビジョンというものが見えてくるというように思い至ったところ

であります。そういう意味では、従来型と新型と言いますか、新規型と言いますか、そのあたりを取り込みながら、さらなる産業の振興発展というものが必要になってくるのではないかと思います。

もう時間も迫ってまいりましたが、最後に私から既に委員の方からいただいている4点目なんですけど、そこを私も最後にはお聞きしなければならないと思っていたところです。もうちょっと実績をというお話しでした。私もいただいた資料をずっと前から見ていきますと、申請数そのものが低い、採択そのものも低い、いろんな施策によってはどんどん目減りしていっているというようなことがあります。そこを最終的にまとめたというか、一番注目しなければいけない点としては、8ページの評価資料の達成状況の2番目で、市内で買い物をする人の比率が目標値はおろか、平成24年の基準値にもなかなか至っていない状況というような産業ビジョンの進捗状況というのが我々に突き付けられています。そのあたりの実績がなかなか伸びていかないということに対して、事務局の方でもかなり資料の方でも整理していただいて、金利の貸付利率の問題であったり周知徹底の問題であったり、非常にテクニカルな制度的な問題もいろいろあると。そこを改めて言ってくださっている最中だと思います。市がそこを制度の問題なのか周知徹底というプロモーション的な問題なのか、それともいろいろ手立てはするんだけどなかなかダイナミックに企業なりの産業の振興が起こっていない大きな何かがあるのか、そのあたり非常に大雑把な聞き方で申し訳ないんですけども、この進捗状況の全体について、市の方でどう年度末として整理されているんでしょうか。

(事務局)

大変難しい問題で、私どもも認識はしておるところです。1つは、前々から個人的にも思っているところですけども、やはり川西の産業がどういう状態なのかということが、どうしてもこのビッグデータと言われる経済センサスであるとかそういった国の調査物を活用してそこから分析をしてという恰好にならざるを得ない状況があります。そういうことで言うと、つぶさに産業の状況を私どもが把握しているかということそれは決してそういうわけではないと申し上げるしかないと思います。その辺をどうニーズや産業構造がどうなっているかということ、もう少し自分達なりに掴む方法をいったんは持つ必要があるのかなと。その上で、やはりそこを目指した、私どももお金も人も潤沢にあるわけではございませんので、そういうところに集中して投資していくというような、メリハリの利いた施策展開というのが必要というようには感じています。確かにこのデータを見ますと目減りしているところが多くございますが、今始めたばかりで今年度から始めたような事業も数多くございます。その辺は、まだまだこれから伸ばしていく必要があろうかと思えます。そここのところが実は私どもが一番力を入れたい部分でありまして、そこで何とか成果を上げるような工夫はしていきたいなと思っております。ですから、すべてがいけるかと言いますとなかなか難しい部分もございますし、やっている途中でこれはちょっと違うなというようなところも正直ございます。そのあたりは、歩きながらではございますけれども、その時点でメリハリの利いたような、ここに力を入れていこうというようなところで事業を推進していきたいと考えております。感想みたいな答えで申し訳ございませんが、そういった意識でやっておるところでございます。

(議長)

ありがとうございました。それでは時間もだいぶ経ちましたのでよろしいでしょうか。

以上で本日の議事は終了ですが、その他を事務局からお願いいたします。

(事務局)

産業ビジョンの今後ということで、現時点の考え方の部分だけお示しをさせていただきたいと思うのですが、計画が29年度でいったん終わります。ただ、30年度から後期の総合計画を策定していく、一方で産業ビジョンを取り巻く中で例えば都市農業の振興の部分とか、こないだ国の方で計画が閣議決定されたりとか、あと中小企業の振興に係る部分の条例の制定の要綱であるとか、いろいろところで動きが出てきております。その辺を総合的に見て、またあくまでも総合計画というのが上位計画で、この産業ビジョンというのはその具体的な取り組みというところで落とし込んでいく必要がございますので、その辺の推移なども見ながら、一番適した時期に策定をさせていただきたいという思いでおります。29年度で切れて30年度から新たなビジョンができるかと言いますと、ちょっとその部分は今のところ未定という形でしか申し上げられません。またゆくゆくは策定していくという方向では考えておりますので、その際には、もちろん委員の皆様にはご協力をいただきたいなというように考えておりますのでよろしくお願いいたします。

(議長)

ありがとうございます。それでは、以上をもちまして、委員会を閉会いたします。